



新編十論衆議

全

5
1435





歷代詩論彙編



Small vertical text on the left edge of the page, likely bleed-through from the reverse side.

利
1435
卷



群
詒
十
誦
衆
議





画十論卷上ノ奥

越新城



俳諧十論衆議

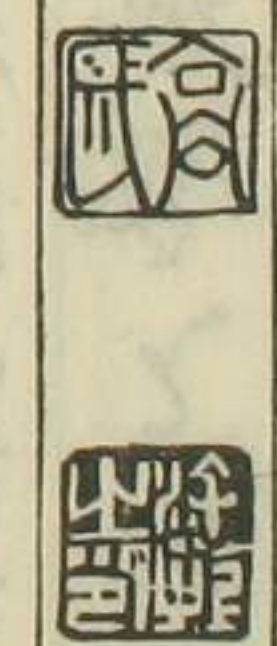
信杖房

おう一我師盧元房奥羽行脚の駕と画一庵
 々々一々時我嘗て十論の講習と立派に
 師の曰十論とて其の傳とて解とて其の
 其辨折の委曲ある今其の言の加ふる
 若し熟讀し之會せしむるあるは其の
 其く一々一々其言深意あり其言十論と
 其やうとて其を為らば其の我嘗て衆議
 紙子とて其のやうの若しよおらるる中



十論集

より終りまゝくろりて函一庵まゝくむるるゝを
合く後世の爲りてくお世の心得るゝを
あまけ書とてんてま書と讀るゝを書と
讀てゝれとんりあゝ及ゝん



十論舟後
舟後十論舟後

佛語十論 附序

○あり〜武江の芭蕉庵めて茶話禪と〜
録とありて吾等の行状とあり〜家家の凡雅と
ひろあんと文と論法の述而あり〜いあ〜維廣の
向疾とあり〜へて十論とる〜存〜おち〜
例のゆ〜〜

衆後云佛語の二字を存せしむる時勢と〜
佛語辨語とも用ゝ〜東と先師と〜て人篇
の佛語と定り十論の才一佛語傳才二佛語道
才三佛語徳才四虚空論才五姿情論才六

あふこととゆへに解はけりしその故と思ひ
 あつりしころの文章よりその故を故語と
 解は出たりしを魯とを存子におもひ暮との
 手紙ともあれておうしき名より解は芭蕉
 庵よ名言の小坊とありて世間の係搦の紙
 リーきよ年一白とて解はやとゆへに
 あつりし或は化人ともいふ

○はれをその妻の二十一年してははあつる減
 あつりしやけ編りしや私あつるよのれくと
 冥とあつりし我々の凡雅とすははつりし

例は他巻の巻のあつりし例は文章の過當よ
 解はあつりしはつりし

衆後云解ははは減あつる月のあつる
 ありあつりしはつりし減後他巻の語れ
 ずは位はつりしと二十一年してはあつる
 既十論とすははつりしはつりしはつりし
 ありあつるはつりしはつりしはつりしはつりし
 半の他巻のすははつりしはつりしはつりし
 や文はつりしはつりしはつりしはつりし
 ありあつるはつりしはつりしはつりしはつりし

○十論集

四

スル身〜下ハ櫻名の試となめたる沖よま
その折々の詞ありまに櫻名の信とま〜
岡出當の二まめ辨おあありて詞の結とよ十論
一部と其る〜あり〜あり

才一他流傳

○おも他流の傳と〜あり〜あり〜在史記と滑稽者の
名ありて齊楚の比より秦漢の向より〜七八人此
言行とあり〜ち史云々天道の賛詞より或は笑
言とりて大道よかあり〜或は談笑とりて汎諫
よ〜も滑稽者と酒桶の喻あり〜姓氏と他流の

〜〜〜〜〜昇竟と虚六の自在より言熟よ
あり〜の〜あり〜

衆議云傳ハ前後相影のより其傳よるその道ハ
自然の即あり〜虚六のめき〜とつよ傳の次才
本文よ祥あり

○他流と〜儒師とやり〜今〜詩・奇の媒と

〜

衆議云傳ハ傳ハ十論一版〜未
アリ故ニ世辰ノ傳ト云ハ一版と他流の根
はた所〜て儒師たの〜道よりのま〜る別の
はあれ〜も歸る所と虚六のめき〜なる

十論集

今や他流の一道とりて虚言と扱ふ媒と云ふ
 媒の一字は十論とほく、世法に何直の二字
 ありと信する、とあり多に道と媒と云ふ
 こと直ちなり、と知りて十論の虚言と世法の
 時直と云ふ、とあり、媒の一字は十論とほ
 く、と云ふ、凡道と云ふ、とあり、世法と云ふ、
 と云ふ、道と云ふ、と云ふ、世法と云ふ、
 と云ふ、詩や連他の凡解あり、と云ふ、
 和と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、
 と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、

○や、て法式も新旧の差、口付あり、色直の
 家の書は、人偏の俳諧と判、と白馬の
 家訓の一傳、と云ふ、

衆議云々、口付と云ふ、十論は十々の
 口付あり、世の口付の越々傳解及み、辨およ
 び、と云ふ、口付、と云ふ、口付、と云ふ、
 今、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、
 天直の一道と建立、と云ふ、と云ふ、
 言偏と人偏と、と云ふ、と云ふ、
 決とあり、我々の衆議、と云ふ、と云ふ、

詳敏と音破しして漢人偏の僻俗あるを
 乃の才におこふりるをさき意門の志業は
 ○はて文明の比あるは山崎の字鑑法師とて
 離譜の名あるより守武整一もなれとてその
 百韻とてしるし句とてしるし

衆漢字鑑法師以下の名録あり字鑑の
 作と本原は前司義清の末言を名録と仰
 始一休初尚ふは子後傍石山清と仰るを
 守武の荒木田氏よりしるし伊勢の神官整一
 同く伊勢の産あり貞徳の松永氏或も

長頭丸とてしるし字鑑のまゝなりして他譜も
 用とあがりしるし自の戯言ありし
 貞室と安永氏末の産あり貞徳の内人
 一して字鑑の名とてしるしよとてしるし
 系抄作とてしるし系ありし貞室の他譜と
 系と出しく系抄作とてしるし系抄作と
 系抄作とてしるし又と津の連中より禪子と
 系抄作とてしるし系ありし疑れやとてしるし
 系抄作とてしるし系ありし疑れやとてしるし
 系抄作とてしるし系ありし疑れやとてしるし
 系抄作とてしるし系ありし疑れやとてしるし

一論新編

他後世に傳ふべき事と隔田にのみありと祿
——と云ふは後世に傳はるる事ありと云ふ事あり
作の事——と云ふはよりある事と云ふ事あり
つくちりり早き人と一分の我慢より師法
と思はる事あり

○此のより難けの事國の武將は檀林の額よりく
沈澁の言不見に破るる事あり身は言法のおり——と
わく眼は姿持のさけり——と云ふ事ありわく事あり
よきはあり——と云ふ事ありわく事ありわく事あり
ありんく事ありの事ありとありんく

衆後云の辨およ事國の事ありと所ありと云ふ
詞の抱子の事あり——と云ふ事ありわく事あり
と怪口も檀林に——と云ふ事ありわく事あり
んともありとありて事國の事ありとありんく
修習の事ありの言ありおよ事ありとありんく我
昔志の事ありと事國の事ありとありんく
よらとありとありんく——と云ふ事ありわく事あり
そく——と云ふ事ありとありんく檀林の抱子の事あり
八幡を事ありとありんく——と云ふ事ありわく事あり
の事ありとありんく——と云ふ事ありわく事あり

事とくはふんと又其門に入るは武臣の句とあり
 其後よむ所の遠いありとて其後
 多た略を傳ふ中其の能傳へんとあるの事
 故よ其師ふくちの才もあし一今や其論よ
 之通とありし一其はとまをかりて其の
 論定くくそのよし時をわたりて其の能傳と
 して其の人の十論とありしとて其の門の
 能傳とくも其師ふくちの才もあしと
 しく其の真傳とて十論よある事とあり
 ありし

○今よ他傳とくもろく唐虞の先わつれてを
 齊楚の後よあらわれしとて其の論一がとあり
 め

夏漢云唐虞の先と儒傳をのちとあり
 そよ其の道の傳ありとて今よ其の道
 とありしと他傳のちとありしとて一傳は
 文東の一道と建まるとあり其の辨れに
 詳あり

○古他の註よ自己の眼とひしきや其の道と
 して其の道とて其の道とて其の道とて其の道とて

十論衆議

此もいふをきかせたりし此道と云ふは他道
より芭蕉庵と云祖と云ふ

衆後云傳曰かくて天祐の記ある武内の深川

と限道一く古他や秘秘のむよのきし

いし由玄の一句よ自己の眼とひしきと

他道の一過とひらやうとらとありは

け一句とせするのせよ行りし始り

と道わくはとけちちと道すくふし

るれる且十論とせ一句より改せくは二句

よとせする今や蕉阿よりく長く此

他道其句の次め其と傳て疑ふ所あり

才二他道無道

○此も他道のろとつちと才一よ芭蕉の自在

世間の即座とよくとあれて凡雅のろ即ちあり

とつちと海よ他道の實法ありとくしけり

ありんといわ言辯法の儼るありんよ芭蕉此

論よんとあやとつちり言法の詔と宗とあり

衆後云るよ他道の二字とせむら始りし十論

才よ他道の通と改しよかた才一よ芭蕉の

自在とよ芭蕉の改のむらりし道三芭蕉

と趣向と定むるより一平と大と疑の句作す
中あも疑の條の條ふく余の二句の簡ありて
山家のら其色より知るべきなり

○はく、まはよ之條あり、まはの人は、ま倫の常は
こして、おう、こら他階の名とある、くはり、こら
凡雅の所とある、

衆議云傳、曰道よ之條のはありて、儒よ似く
こらまると説かれ、仰よ似く、ま虚と、ま
ゆ、くを在の理非と、ま、は、く、ま、ま、と
中庸の法よ、く、ま、と他階の大家の師と、子

る、とあり、や文及傳の辨おれ、ま、く、
ま、く、と、祥あり、熟讀、て、ま、く、と、ま、
く、ま、く、

○は、お、ま、吾、を、ま、く、下、ま、十、哲、の、ま、と、ま、く、ま、
ま、の、徒、あ、れ、ま、く、人、よ、ま、く、所、て、他、階、と、ま、く、ま、
ま、の、信、よ、ま、く、を、傳、を、祇、為、の、功、と、は、く、ま、て、却、此、の
ま、ま、房、よ、在、ま、く、佛、頂、礼、尚、の、祥、室、よ、ま、く、ま、
後、子、一、碗、の、茶、よ、ま、法、と、は、く、ま、り、て、他、階、の、ま、く、ま、
と、ま、く、ま、く、ま、く、

衆議云、ま、く、ま、く、ま、く、文、他、階、の、ま、く、ま、く、ま、く、ま、く、

る〜とささるる行状のありし〜也
 熟後見〜一投子一統の茶のるの他
 所要〜一人おせのいけありい書
 る智〜とささるる却て我輩の前後
 後掌のるある一統の句語とささるる
 人目控あり〜一統の傳お投子一統の茶の
 詠則ありを越と投子一統の茶と懸〜
 素羅万象〜とあり〜とささるる
 そのささるるおあけて素羅万象〜とあり
 はちささるる投子のささるる可惜一
 碗茶とあり是

才子一統の茶の虚ささるるささるる
 居ささるるありおあけささるる味とあり
 あ〜常座の茶あり〜とささるる
 と〜とあり〜他階と〜と月の人〜と知り
 へささるる後世はささるる下〜とささるる
 茶の二句は法向と〜と月の人〜とおせの茶
 ささるる〜とありて変化と姿の〜とあり
 世と他階と〜とひのたささるるおん
 傳等と祥ありお辨おさるるおん
 向の趣より他階と〜とのおん

一論舞海
 十
 一

了る一我書意の要後より越中井波の能備
 よど先妙太事子の系句よるおのこ句目
 要後と出るこより言よ出はるをせはる
 ありありある會の附合よおはしつたの
 くらと後よりありこ句

養親の言よれこしりる

ころおの意と述べてねり

本等やおの二句と伊勢お浩の付よ似らうい
 てこ句目のこら一あり一と次の作はのたの
 能松とこあこよりんこ句のよえよ折句と

取れぬの對ねりこあら人ありておはるこ場

なるこんちのち人よとわく熱向に

ちんちのやしはねせきこり

と附きハあ句よ退行對言とそれといこん

ち遠きあよりこ座の可互にわらきんせしあ

年にかつこかろの言よちんちのまよとありとありて

ころれ難不とわらうきんちこ言のまよとありて

こころいやとこらり

○たもやけるの功と論を儒仲老花の處言とあ
 けうい清き連きの理とちよて固よんこあり

是あれは家にあつては子ありてはきく他後へ天下の
 一助^ハとつて一^ハ志あるも他後の人を富^ミ財^ハ此
 事のとよきとされ田舎の秋の塵より一^ハりては家
 高店のもつちよしとかりは酒肆淫房のあつては
 くらうしに

衆議云々よむ道の功とあり一^ハつて平連^ハ弁
 よ新^ハて他後の一^ハ家とまゐるあるとまゐるねれ
 徳におこりまゐるを孫子庵の者よひるある共よ
 世濟の才と作るを一^ハとて世末向上の一路のる
 ありんと用ひてらんり一^ハとてまゐる諫^ハ臣^ハ辛^ハ子と

酒肆淫房のあつてはくらうしに
 ねれはるるまゐる世新と一^ハたまゐる一^ハつてけるの
 子と放つて早き人の虚言を不自在よする諷
 諫の通行しはねあつ

○多^ハいふ一^ハ吾^ハをいふと人々と誨^ハりては他後
 るねのきよ一^ハとまゐる一^ハつて諸と我家の邊金
 らるるおつちの人の過^ハとまゐる一^ハつてや今一^ハつては
 意と論^ハのたつてはつてはつてはつてはつてはつては
 やらうしにたつてはつてはつてはつてはつてはつては
 階のあつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては

衆後云の辨おるるたの衆の下雅波のきくた七
通ありそのうちをわり衆の言をよありその通
ありその為遷化の縁七甲戌年十月十二日あり

芭蕉公判難波ノ旅店ニライテ遷化遺骸ハ江外不曾寺ニホウカレ然シ
ヨリ以来年回ニ當テ東花先師法恩ノ雅遊ヲ用キ諸国ノ連中ヲ
會ス孰中十七回已ニハ洛東乃林寺ニライテ石碑ヲ造立シ假名ノ銘
ヲ製ス且梨園法親王ノ尊命ニヨツテ獅子庵ノ白在教令ノ文ヲ
書ス碑銘ハ謎文ニシテ漢家曰法ニナラズリ
本朝ニ假名ノ碑銘ノ始ニシテ蕉門ノ眉目ナリ

物の述はありしち花を師ノ出山仰の像を仰像

今法不双寺秘あり為辨抄ニ出山佛ノ像古今ノ序傳百人一首ノ
秘文抄東花先師正形見トアリ出山佛ノ

像ハ十七回忌法會ノ時乃林寺ニ奇附アリシトナリ但十七回忌ヲ東花坊
カ吊ニサメトアリ其翌年先師亡名ノ年ナレハナルヘシ寛保三癸亥年
五十回忌ニアリ當盧師同乃林寺ニライテ三晝夜ノ大會ヲ催サレル時
ニイタツテ日本六十余列國トシテ法恩ノ雅會ヲ催サレハナク所

トシテ追福ノ真章ヲ捧ガルハナシ盧元房花供養ノ選集アリ其
撰半ニシテ盧師遷化ス因テ五竹ノ房次ヲ選之今五九巻アリ

傳ニ曰君知るや世論のまよるふ道一ノ子の信
と志あり一法よるるねのちさけ一とととと
長よあれくちよへくめさるよ列れてきよめ
んきとさきく世世道の二道あるとあり神よ
今の世道とを慮るよ道の心と信て言語此
あやしく天の真とほく一雅俗一極の抱戲不
ると信をるき一とと

才之世道徳

○おし世道の徳とよきとるんといふと即ち此二名あり

人理と推して天理と志すかよとありあり

要後云々人理と推して天理と志すかよとありあり
後道の論は世間の理窟と推して天理と志すかよとありあり
る理と推してありあり同一の中より道と推して
天理と志すかよとありあり推して天理と志すかよとありあり
天理と志すかよとありあり推して天理と志すかよとありあり
考へ故よとありあり推して天理と志すかよとありあり
天理と志すかよとありあり推して天理と志すかよとありあり
其るの理と推してありあり推して天理と志すかよとありあり

○はては世の理と推してありあり推して天理と志すかよとありあり

仁勇の二よりして智と志すかよとありあり推して天理と志すかよとありあり
のどありとありあり推して天理と志すかよとありあり推して天理と志すかよとありあり
仁勇と外よりありあり推して天理と志すかよとありあり推して天理と志すかよとありあり
張良の女児の如きありあり推して天理と志すかよとありあり推して天理と志すかよとありあり

要後云々世の理の解は漢書に見え、張良の智勇、
以為貌野格倚偉、及若婦人女子とありあり
これ仁勇と内よりありあり推して張良のありあり推して天理と志すかよとありあり
の道ありとありあり推して天理と志すかよとありあり推して天理と志すかよとありあり
あり口傳よりありあり推して天理と志すかよとありあり推して天理と志すかよとありあり
ありん若山、漢書と推して天理と志すかよとありあり推して天理と志すかよとありあり

古句の三章あり

さのうらんを礎と也

阿房子ありてまの礎と入る

此れ礎におさるるの御書ある阿房子ありて
 かくある虚言よ訊凍の二月よりして
 ありおとありてと付と場の説ふと入る
 と出るとありんる虚言の月の危きと隠さ
 るとありて又東花を吹めむりて
 り御の付宏智法下肉身の像よ三章あり
 あらうととありて

と付の三句の姿力ありて
 むらんといふ

六月にて難おらん鯛あり

ともそこの色相とともあれきら枯木寒を叢の風
 膏と作るらんや宏智法下と越後国野橋村に
 有法下亡命より四百余年肉身の像今あり

○はちよ五言を虚言とありて
 亦く虚言ありて

衆後云他信と訊凍の遠ありて虚言とありて訊
 凍の言と行ふ言ありて言語の虚言と行ふ

おのちのついでに言はれし虚言ありきとて
 君父といふ先んは例に依る人の訛言ありし物を
 町の指子として訛言としてゆめ討たしことしめて
 直諫よしくせしんを直に訛言ありし言ふを虚言
 ちりしを言ふの虚言もあつて——或時の附合よ

かつとつてはぬのありし言

あつたよきよと伯父のせし後

世所合らふいと虚言のついでに——のついでに人として後句を
 それら虚言もあつて——言ふと伯父の虚言とせして句
 作りは虚言の誣めり尚將その虚言と後句の

世のやふいと虚言のついでに——のついでに人として後句を
 たつたよきよと伯父のせし後
 うとくそよのついでに虚言もあつて——のついでに人として後句を
 よきよのついでに虚言もあつて——のついでに人として後句を
 せしよ、虚言もあつて——のついでに人として後句を
 違ふしついでに虚言もあつて——のついでに人として後句を
 ちりしを言ふの虚言もあつて——のついでに人として後句を
 の言ふも又虚言もあつて——のついでに人として後句を
 そいふと虚言もあつて——のついでに人として後句を
 虚言もあつて——のついでに人として後句を

○一論身理
虚より一も一も虚いん言ふも虚と万物の運
化と叙く為あり内より虚ある時、喜怒はこれ
に死若し、されども虚より言ふと生し、これ言ふと
虚より叙く虚言ふの正後、通と生し、これ言ふと
と生し、これ言ふと虚言ふの正言、これ言ふと
これ言ふと虚言ふの正言、これ言ふと虚言ふ
りて東花先師の言、これ言ふと虚言ふの正言、
これ言ふと虚言ふの正言、これ言ふと虚言ふ
遺言し、投子の語、則ちこれ言ふと虚言ふの正言、
自他と所叙との正あり、これ言ふと虚言ふの正言、

○一論身理
略し十論の都て、これ言ふと虚言ふの正言、
これ言ふと虚言ふの正言、これ言ふと虚言ふ
一辨と白馬の法の才、これ言ふと虚言ふの正言、
方便と生し、これ言ふと虚言ふの正言、
此より言ふと虚言ふの正言、

才五姿情論

○此も他論の凡そ、これ言ふと虚言ふの正言、
此も他論の凡そ、これ言ふと虚言ふの正言、
と生し、これ言ふと虚言ふの正言、
の情と念、これ言ふと虚言ふの正言、

論と志と

夏漢云傳曰此篇と全く天地の文章の深と
作佛仲子文章の深とありてありて又
及乃辨抄案の論の下ありて

○漢や今の世道とて古池の徒と姿とてんて
て世と今とあまに似たりともさひとも風情と
その中に含めり風雅の録世といひん也

兼後云 古池や徒をいひんものも

新くも姿の死をさるも例の世と先と
身はと句の世とてつて姿とてつてはり

あらん我者よも姿世の論よとて
世醒ありありと感とて世の句と世先
あり世と先よと世の句と世先と
ありてありてと今とてとむ
て世連て師と世能順よ命して句と
と世つて能順の句よ

秋風と世の句と

とありて世の句と秋風よと志と人んて
世つてありてと世よと世の句と能順連能の
うらありと世とてと世連てと世よ

指とぬくく他指と袖の端とありりく指と
そ染よきうふいふう染めと先よきうの
の法基あり

○いぬよ五毛毛と平とかりて他指とすく目と
かりて他指とつらり〜〜〜耳目と染指の
くらのち〜〜はよの指のちらぬあわらむ
言語の染とりあきらむくあきらむく
〜〜〜袖と両袖とすよて首とちらぬあ
〜〜〜片肌とあよて膝とよく〜と
平の染とり〜〜あきらむく助指のまむ

象漢云或時我師某門の凡染と人よ諭る句よ

平よす染〜〜とあつて柳丸

因他指の毛と諭る句よ

ちらぬ〜〜ちらぬてちらぬやと〜

二章とど文及の辨あし差万ふの下よ〜

合と〜〜又副見五竹店の句に

あ〜〜あ〜〜とさるるさる

はうや五竹店の夕暮よ〜〜のつらや〜
あ〜〜あ〜〜てさるる〜〜のうた〜
ありる句とび等の境んとりらる〜〜

ともしれとて詩は和歌の優美あはれなり
詩の汎論をうんやおよびたりあはれを得るあり
——と争ふる家の建流ありあはれは和歌も
その得るありと和歌の文の佳とを評ありと
らんや

才六他諸ノ地

○此も他諸の地といふは孫のうらうらま地といひはあ
うらう下地といひたりて今様の汎論ありとていふあり
節といふあり曲といふ中の変ありと

衆議云ふ文をうらう傳仲の大道は勸善懲惡

の地れといひて他諸の地と評する孫のうらう
○はとて節のうらうも我家の汎論をうらうと
あはれとて例のうらうも他諸のうらうと家くの
宵のうらうと建流のうらうとありと

衆議云ふ辨妙結構人の下は天下小君と天下の
師といふ孔子孟論より節といふ和歌の二節ありと
とてうらうありと和歌の地は曲節の二節ありと
後如草の中よりうらうもあはれ節といふ假令は三條の
法はありとありとありとありとありと二條の汎
論の優美ありと汎論の常法の二條ありと

句うとあつたを懸念のふりの中よりせられたる
るしてあつたは曲節のあつた
と都の附方の池のよおお懸念と

○多々人向の地を論する言に短くはさつたのて
父のおのれとてそれと男女の中の変とをさうとさうして
月香花不とあつたの風雅の情とてさうとさうとあつた
こころとあつた及ちんはれとてさうの佳の昂あつたとて
三月と詞とあつたあつた入嫁取の言とさうとさう
後西の模倣とほねらうとてさうとさうとあつた人よ對とさう
初に心のとて媚とさうとあつた

衆議とて他後地の要月とて地とてあつた
あるとて一次の月七月八の二論の地の作りあつた懸念
一とて一論の地とてさうとさうとて一作り地言行の
論の衆議とおのつた作り地は行脚の言とて言行
地論の作りとて我々衆議の衆議のおつた作りと
ちんとあつた衆議とて二論とて欠く但し作り地の
や文とて文よとてさうとてさうとて他後地の文章とてさ
か一篇とて透得とてさうとてさうとて言行論の建福
の五秘の論とあつた衆議と二論と懸念と

才七作り地

尾とくくきれら削の俗うて稚ちしと今の他借と
始扱の二口付とりて中子風雅の格とあせり

衆御云後世のいふる世風の付よ

五^姑菱内子 降^中まゝるや け^後あゝ飯

七^姑たじや 註^後おせじの 舌

昔の他借とくくきれら削の俗うて稚ちしと今の他借と
一^後あゝ飯とあせり
の^中まゝるやとあせり
少^中あゝ飯とあせり
今^中の他借とくくきれら削の俗うて稚ちしと今の他借と

とぬくるもや先世の口あゝ削の書と熱漬
まゝるやとあせり
の^後あゝ飯とあせり
と^中あゝ飯とあせり
と^中あゝ飯とあせり
今^中の他借とくくきれら削の俗うて稚ちしと今の他借と
あ^中ゝ飯とあせり
け^後あゝ飯とあせり
あ^中ゝ飯とあせり
昔^中あゝ飯とあせり
子^中あゝ飯とあせり

梅も春ははるこの春のつらけけ

昔も梅若菜の始ありて鞠古のつらけけの始と
 あり白中のおともぬくのゆゑあはれと知り後
 上優遊の余始ありと知りて古他の句よおのよ
 ういしきこふ怪とておのよあはれと知りて
 もいふおのよとて中と略せりやあはれの言ひ訣
 ありきりぬたし一かく一か余始と知りて
 或は向此道は貞徳とて本宗因よるゆゑ始中
 孫のよとてこのよとておのよとて始孫二つは変化
 一とて道とておのよとてぬたると東花先師とてと

傳へて昔くまにひらたあり阿誰語自末
世集六 始中

終ノ中ヲ略セルヲ又如ク
略シテ行過ノ集ナリ 始孫二つのて始と略し一也始有

孫の此道はちんちやあはれとてかたて我書よ不
 實あり梅もはるの始孫二つの此道は不易の道な
 りとて海滅後のあはれとてあはれの論定る
 たりとてあはれとて世とて人よ歸るのゆゑとて
 宗通のおおあはれとて或はゆゑとてその凡の
 きりとてちりて獨阿誰語のあはれとおおあはれと
 實はるはれとて阿誰語文集
阿誰語ノ行過ヲ地ニ
戻リタル集ナリ各利

の解は白はれは天あり地あり竹あり物も始孫の

二ツありて其中一人向の極終とほくれば人
 凡月よもしちひきり人のどうもよけぬちよ
 て終ありともん世持分那のかけちくみ
 佛危の家面目坊もしてあやうとありそよ
 くと先とおりの蕉河の他道も世を人の智解
 ちもそ右の行もあんと阿波活の在も世
 一とく柳子庵よ世一熱向と立てたのり
 の罪と我と我身よ帰一懺悔の一信は合く
 蕉河よ百世の爲とつるう一和身よ世長雨
 今の未事記ありて未事よ世事のいさ

ちる者合せり知るくさるる也

○けちよ吾も熱向とはくはと立ては五箇の
 一徳とあせり

衆後云或向為辨妙よもる所の所句と語
 あり

今とやの草紙賦 と言はれま
 よりの終よ誰もかくあ

世誰の二とようはの遊とあやうとあり
 今の遊と道句の心よもる志うたうとあり
 遊と誰とあやうと我とあやうとあやうとあり

所食のちりの後、趣向より一語ふるゝ句作られた
るの趣向のあらはれとく、まじりて其月次の書
ぶ句のうごちの作あり

る句よ解くゝ息とあつたれ

祖父極とこころよりつゝの處てあり

は句をすゝらふおしゝゝれとぶ句のうごちあら
るゝ一解解くゝ詩のうごちとらゝて、深き一ぶ
句とこころゝてつゝねの一句とまゝと一句とつゝ
こちの難と道人とまゝのそれとゝゝゝの
うごちありきゝゝゝの祖父極の句と

祖父極とこころよりつゝの處

これけれのうごちのうごちと道れ一句とつゝ
まゝありきゝゝのれのうごちの論はあらはれ
辨およけれのうごちにわく趣向と句作とつゝ
はまゝゝゝあり或は向在よりまゝの句よ解
て祖父極と趣向よれとあまゝん如何答とるゝ
趣向よ才一の習あり趣向の道理と理のちの差別
ありて理のちの趣向とまゝも趣向まゝ在の
篇句よ解くゝ息とあつたれの句とつゝねの句
の解と今日のまゝ息よちゝゝゝとんを律

ある出入りも入つてくるとは、是れも年寄も内儀もあつた
と云ふうと申すの女と熱向とあつていふやその
申すの熱向あつて一節句の辨はあつてそのあつ
ともいへば又或は其の象儀也

也ー入れのむをいふ事ありて

はるよと云ふやの祖父也

世もや祖父也の熱向のうらりていふ事
且熱向のうらりて儒佛の強くあり都て書籍も
文章も熱向と先も定る事あり辨は熱向と
あつて又同辨執中の法の下もあつて

或も同九五條の事十九條も其裁あり

古今抄よ也

古今抄全部五巻内三巻貞亨子式
二巻八東花式舊門ノ俳諧大成ノ書ナリ

辨て六

條も十條も教をいふとあつて古今抄九五條の傳
よにおよびあつて言志あり古今抄の十九條も
三校もいふやあり十論もいふと教をいふ
一は其の傳もあつて五條も傳字の誤り

○かくもいふおろりていふ事あり附の中もいふ
所方の先もいふの論ありなかりて其のあつても
其のあつてもいふかありていふ事ありていふ事
横はりていふ事ありていふ事ありていふ事あり

附合の基申ありなす行れの附方よも先手後
 手の越ありと知りて。世後よ有ん附のてり
 四手不ありも中江中一よ有ん附とてかた和手
 有んよ一とせんとす得せんとあり先りれのと
 二一もも心ちきとてかたか一一分て有んがよ
 ありとてり

○はてし摩ののてり時を衣良よ一日の横嫌とて人
 て方と基山のせしがさゆらりんと信れの方志川に附合
 の之法とていふありともなりと又辨十所の細はりか
 り例はす方ふのありり初念の越向よとてりよ

次好きとてりのは合とてりてあつとも時の不運ちん
 先と虚合の虚合とてりて十論の空を音とてりとの
 変化ありけれとも一法の調子ありて説とてりてり
 川へてりきとてり法とてり人の右持を旋とてりとの
 種とてりて説と説とてりてりてりてりてりてり
 てりてりてり甲ゆりてり切割とてりてりてりてり
 らぬくとてりてり文武の好とてりてりてり十論をかくり脚
 とてりてりてり

我後云世よ之法もせるとハ新しとてりよおより十
 論もかくりてりてりてりてりてりてりてり

遠しあはらふ其法とてその人の右持た旋のこゝく
 他諸しやせしむ禮者 古あるはつる甲二うし切新の附
 合ハちしれはししし ちよしの禮者古よかりけりてあは
 ししはち多禮とてししししすかおよそ也よをのせ
 分ふよあはれおふよ許しして向ふおとむん終
 分別あり許しを附合のこゝく 天地懸隔とてこゝ
 他禮の極意ちりりとありしし 或日画一庵の門よま
 被けひのこぬをどししししとまらとてんつよ 例よ
 部の常より常とてしししししししししししししし
 けふしししししししししししししししししししししし

尺さあてぬすとあはれしししししししししししししし
 かうあてたしししし他諸しと禮者かふしししししししししし
 て。あて尺さあてしつあよ。あはれおふしししししししししし
 所さるししししと免角かおしししししししししししししし
 教をさうしししししししししししししししししししししし
 ねん。あて尺さあてししししししししししししししししししし
 おうししししししししししししししししししししししししし
 せしししししししししししししししししししししししししし
 大さししししししししししししししししししししししししし

（一）

せんく——さるはそれと重なる大抵がち
 り或るとどの所よりして音と境くちこ
 ころを他後へず不以下は凡雅と導くた
 るにせは——何の音も洋はちめはは
 論よりよち——あつる——

○ちてくくの附句あるに才てく附句のるに
 くとす——く附句の熱向と移をへくお句の
 す——才てくく附句の才越るのくお句のく
 くとす——く附句の熱向と移をへくお句の
 面句のちあつる

要後云世の好よらるる——也は折の变化ハ
 一巻の極極の同——くくくくくくくくく
 備へる百約の百變ありりりりりりりりり
 同——くくくくくくくくくくくくくくく
 場と付の用とくく熱向とまらるよよよよ
 今——くくくくくくくくくくくくくくく
 とくくくくくくくくくくくくくくくくく
 をかくく熱向とまらるよよよよよよよ
 よらりてくくくくくくくくくくくくく
 考よちくくくくくくくくくくくくくくく

の愛と後より中意の抑折のむよ

あうしはよおんてもこころいふおん子

唇さのるちとくあうしあふ

一枚のむ盛んくと意のあ

おせよより難しとくよは句を南句のあうし

ろくとしはてよ二句の階意と抑折の意可也

抑さあしと上階下の愛とより抑折のむの位

あうしと倒の趣向と作るくかしのたかよあり

咽笛とよよりとて二人のほれ

こころのむよ定くぬ折よ折下の愛めつらん中七

旅行地のし書よあり

○アに客名句としひ幸を眼とくはあしといふ人

あふよるるしは客名句と客の位は心とは中にお

つうらく調のあふんとあふし眼と幸とこの働よ

心くそんあしとくよ客名句の余情と抑折のなせ眼の

物事しはははよあふし

最後云客名句眼と客と幸とよのああるてし客の意

先て客名句のの眼と幸とよとひくんとあふあ

るしはとく都てし客のあしはしとあふあ

句と客の位は心く眼と幸とよのああると

子実とてくあやとちんは世に始孫とて
 尤後成就のふと知るべしはつら孫文よと
 して尤後の世にのよりあつとあつと
 する理と理名と戯れと虚実と十論の
 理とちりりて凡言新治の二つより治世は
 どのの和と括へる世の一子に世に懐也
 ちん又十論に十箇の要文とあけて孔子に
 夏秋の歎息とく達戸に擲迦の密法と
 け都く十論の不可思議あり我世の世に
 るとくあつとねとかりとあつとあつとに

よりてかくと一巻の世にのほつとあつと書
 乃辨抄の世向よとくく我世の向と
 一きり驕珠よ真目の世とくくして知るに
 ころちんころそあれと我世の人とて彼
 後とて思ふとくあつとあつとあつと人の為とて
 明眼の世と待るるとくあつと

明和三年戌年

五月中旬

○十餘年頃

世三

書林

京寺町押小路橋屋
野田治兵衛



